

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)トヨタ田原寮建替計画	階数	地下0階地上10階
建設地	愛知県田原市浦町丸山1-1	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用地域	平均居住人員	1,647 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年6月 予定	評価の実施日	2026年1月9日
敷地面積	41,282 m <sup>2</sup>	作成者	石崎 桃花
建築面積	8,323 m <sup>2</sup>	確認日	2026年1月10日
延床面積	54,633 m <sup>2</sup>	確認者	中村 浩二



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 72%

③上記+②以外の: 72%

④上記+: 72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4.1

Q1 室内環境: 3.2

Q3 室外環境(敷地内): 2.0

LR1 エネルギー: 4.3

LR2 資源・マテリアル: 3.7

LR3 敷地外環境: 3.4

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)トヨタ田原寮建替計画

■使用評価マニュアル:  
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>													<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>													<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>													<b>3.1</b>
<b>1.1 室内騒音レベル</b>													<b>3.0</b>
<b>1.2 遮音</b>													<b>3.0</b>
1 開口部遮音性能													3.0
2 界壁遮音性能													3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													3.0
<b>1.3 吸音</b>													<b>3.0</b>
<b>2 温熱環境</b>													<b>2.9</b>
<b>2.1 室温制御</b>													<b>3.0</b>
1 室温													3.0
2 外皮性能													3.0
3 ゾーン別制御性													3.0
<b>2.2 湿度制御</b>													<b>3.0</b>
<b>2.3 空調方式</b>													<b>3.0</b>
<b>3 光・視環境</b>													<b>3.2</b>
<b>3.1 昼光利用</b>													<b>3.0</b>
1 昼光率													3.0
2 方位別開口													3.0
3 昼光利用設備													3.0
<b>3.2 グレア対策</b>													<b>3.0</b>
1 昼光制御													3.0
<b>3.3 照度</b>													<b>3.0</b>
<b>3.4 照明制御</b>													<b>3.0</b>
<b>4 空気質環境</b>													<b>3.7</b>
<b>4.1 発生源対策</b>													<b>3.0</b>
1 化学汚染物質													3.0
<b>4.2 換気</b>													<b>3.0</b>
1 換気量													3.0
2 自然換気性能													3.0
3 取り入れ外気への配慮													3.0
<b>4.3 運用管理</b>													<b>3.0</b>
1 CO <sub>2</sub> の監視													3.0
2 喫煙の制御													3.0
<b>Q2 サービス性能</b>													<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>													<b>4.1</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>													<b>3.0</b>
1 広さ・収納性													3.0
2 高度情報通信設備対応													3.0
3 バリアフリー計画													3.0
<b>1.2 心理性・快適性</b>													<b>3.0</b>
1 広さ感・景観 (天井高)													3.0
2 リフレッシュスペース													3.0
3 内装計画													3.0
<b>1.3 維持管理</b>													<b>3.0</b>
1 維持管理に配慮した設計													3.0
2 維持管理用機能の確保													3.0
<b>2 耐用性・信頼性</b>													<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>													<b>3.0</b>
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													3.0
2 免震・制震・制振性能													3.0
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>													<b>3.0</b>
1 躯体材料の耐用年数													3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													2.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													5.0
6 主要設備機器の更新必要間隔													2.0
<b>2.4 信頼性</b>													<b>3.0</b>
1 空調・換気設備													3.0
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													3.0

			0.2	2.8	0.29	2.9	2.9	1.00	2.8
<b>3 対応性・更新性</b>									
3.1 空間のゆとり									
1 階高のゆとり									
2 空間の形状・自由さ									
3.2 荷重のゆとり									
3.3 設備の更新性									
1 空調配管の更新性			②						
2 給排水管の更新性									
3 電気配線の更新性									
4 通信配線の更新性									
5 設備機器の更新性									
6 バックアップスペースの確保									
Q3 室外環境(敷地内)									
1 生物環境の保全と創出			独自③						
2 まちなみ・景観への配慮			独自④						
3 地域性・アメニティへの配慮									
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④						
3.2 敷地内温熱環境の向上									
LR 建築物の環境負荷低減性									
LR1 エネルギー									
1 建物外皮の熱負荷抑制									
2 自然エネルギー利用									
3 設備システムの高効率化									
4 効率的運用									
集合住宅以外の評価									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング									
4.2 運用管理体制									
LR2 資源・マテリアル									
1 水資源保護									
1.1 節水									
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									
1 雨水利用システム導入の有無									
2 雑排水等利用システム導入の有無									
2 非再生性資源の使用量削減									
2.1 材料使用量の削減									
2.2 既存建築躯体等の継続使用									
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②						
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自						
2.5 持続可能な森林から産出された木材									
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自						
3 汚染物質含有材料の使用回避									
3.1 有害物質を含まない材料の使用									
3.2 フロン・ハロンの回避									
1 消火剤									
2 発泡剤(断熱材等)									
3 冷媒									
LR3 敷地外環境									
1 地球温暖化への配慮			①						
2 地域環境への配慮									
2.1 大気汚染防止									
2.2 温熱環境悪化の改善									
2.3 地域インフラへの負荷抑制									
1 雨水排水負荷低減			独自						
2 汚水処理負荷抑制									
3 交通負荷抑制			独自						
4 廃棄物処理負荷抑制									
3 周辺環境への配慮									
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									
1 騒音			独自						
2 振動			独自						
3 悪臭									
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制									
1 風害の抑制									
2 砂塵の抑制									
3 日照阻害の抑制									
3.3 光害の抑制									
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策									

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>4.1</b>
LR3-1 地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.2</b>
Q2-2 耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3 対応性・更新性	2.8	0.09	
LR2-2 非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1 生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>1.0</b>
(評価ポイント)			
Q3-2 4) 地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2) 地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)トヨタ田原寮建替計画

計画上の配慮事項	
総合	断熱性を高め、空気環境に配慮する等、室内環境の向上を図っている。
Q1 室内環境	内装の全面的にF☆☆☆☆の建築材料を使用し、さらにホルムアルデヒド以外のVOCも発散量の少ない建材を使用する等、室内の空気環境に配慮した。
Q2 サービス性能	建物全体の階高や住居内の天井高さにゆとりをもたせ、更新性・機能性に配慮した設計とした。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地境界部に植栽や敷地内歩道を設けることで、地域活動やアメニティに配慮するとともに、良好な景観を形成している
LR1 エネルギー	Low-Eガラスの採用や適切な断熱材により断熱性を高め、建物外皮の熱負荷抑制を図っている。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材、エコマーク商品を積極的に採用し、資源の使用量削減に努めた。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を抑えるようにし、地球温暖化に配慮した。
その他	特になし